



心温まる支援

◎二市からの救援物資

- 非常食 3,700食
- 飲料水 7,500本
- 燃料携行缶 45缶
- 毛布 150枚
- バルーン付投光器（貸与） 4台

登別市

白石市

海老名市



迅速な初動体制をとり、気象庁などの関係機関から情報収集を行うとともに、広報車により市内を巡回するなど、被害の把握などを行いながら、速やかに対応を行いました。

胆振東部の内陸を震源地とした地震のため、津波の心配はなかったものの、市内全域に発生している停電などの状況から、市内4カ所（市民会館、婦人センター、鷺別公民館、鉄南ふれあいセンター）に自主避難所を午前5時30分から開設することを決定し、広報車や防災メール、市公式ウェブサイト、市フェイスブック、



▲防災執務室で初動体制にあたる職員（9月6日（木）午前6時20分ごろ）

連合町内会の緊急連絡網を活用して、市民の皆さんへの周知を行いました。

非常用発電機などにより、電力を確保した4カ所の避難所には、最大315人が避難し、その中には、外国からの観光客も含まれていたことから、外国語を話すことができる職員などで対応に当たりました。

さまざま支援を受けて安全・安心を確保

市は、現在、65の事業所などと防災協定を締結しています。

今回の災害時においても、協定先の市内のレンタル会社や国土交通省北海道開発局などから発電機の提供を受け、各避難所や市内の浄水場など、電力の供給が

さまざま支援を受けて安全・安心を確保

必要な公共施設の電源を確保しました。

また、姉妹都市の宮城県白石市・神奈川県海老名市と登別市は、災害などで被災した市に対して、ほかの二市が応援する『危機発生時における相互応援に関する協定』を締結しています。

登別市と白石市との歴史的ゆかりから始まった交流は、平成22年に海老名市も加わり、トライアングル交流として、さまざまな分野での交流や相互支援関係を築いてきました。

支え合う地域のみなさん

深夜に発生した「震度5弱」



市は、災害時に、防災関係機関などと協力して、市民の皆さんの命を守ることを最優先に対応します。しかし、道路が寸断され、すぐに現場に駆けつけること

これもひとえに、長きにわたる市民同士の交流などによって強まった三市のつながりによるものではないでしょうか。

9月7日（金）午後6時30分には、市の要望した非常食や飲料水などの救援物資が、フェリー航路を利用した両市の職員によりトラックで届けられ、その後には、両市の市民団体などから、寄付金をいただきました。

必要に応じて、被災した市に対して、ほかの二市が応援する『危機発生時における相互応援に関する協定』を締結しています。

登別市と白石市との歴史的ゆかりから始まった交流は、平成22年に海老名市も加わり、トライアングル交流として、さまざまな分野での交流や相互支援関係を築いてきました。

◎各自主避難所の状況

避難所	最大避難者数	閉鎖日時
婦人センター	53人	9月8日（土）午前9時35分
鉄南ふれあいセンター	33人	9月7日（金）午後3時15分
市民会館	172人	9月8日（土）午前10時45分
鷺別公民館	69人	9月8日（土）午後2時10分

が難しい場合や市内全域が被災し、多くの方が支援を待っている場合などには、地域での助け合いが大きな力となり、被害を最小限に抑えることにつながります。

9月6日（木）、市内全域が停電に見舞われる中、この災害をみんなで乗り切ろうと、市民団体などによる炊き出し支援に加え、多くの自主防災組織が主体となって、スマートフォンなどの充電サービスや避難行動要支援者の見回りなど、さまざまな活動が行われました。

地域のつながりを肌で感じ、心が癒やされた方もいたのではないのでしょうか。

自主防災組織とは、地震や火災、風水害などの災害時に、地域や住民ぐるみで防災体制の確立を図るために結成される組織で、市内には、現在、町会、町内会、自治会、地区連合町内会により設立された37の自主防災組織があります。

市は、自主防災組織に対して、防災訓練や防災研修などの支援に加え、活動に